

先生各位

病理組織検査の検体（手術材料）提出に関するご案内

謹啓 時下益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。また、平素はひとかたならぬお引き立てを賜り、厚くお礼申し上げます。

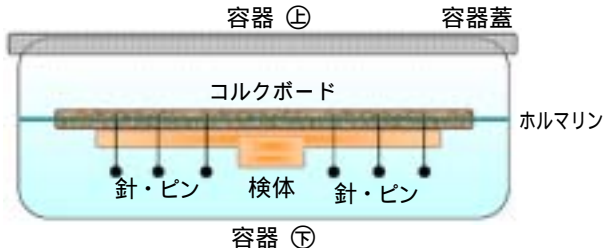
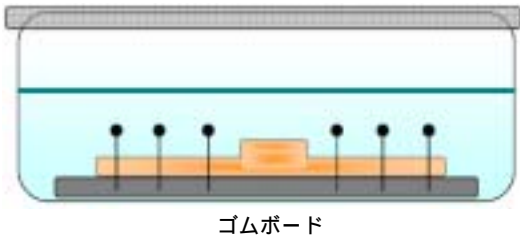
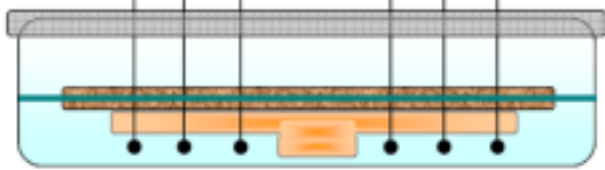
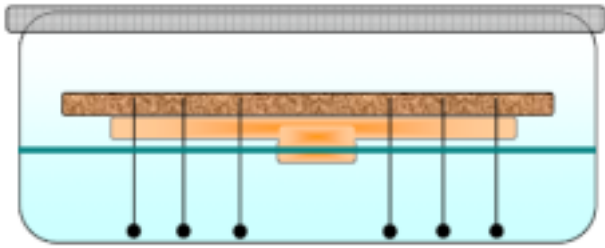
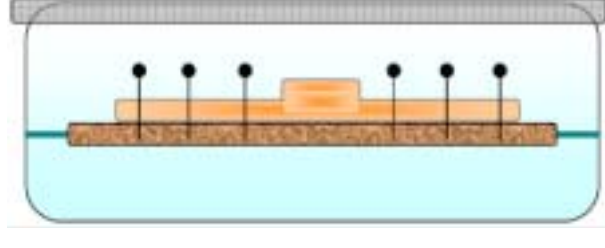
さて、病理組織検査において、特に消化管臓器（手術材料）の提出方法に不適正なものが見受けられ、正確な検査結果が得られない可能性や、取り扱い時の怪我、感染など重大な危険性をはらんでいる場合もありますので、検体提出についてのご案内を申し上げます。

つきましては、下記の事例をご参考に、適正な状態で検体をご提出して頂きますよう、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

今後とも変わらぬご愛顧のほど、よろしくお願い申し上げます。

謹白

記

適 正	不適正
<p>適正例</p> <ul style="list-style-type: none"> 消化管臓器の手術材料をご依頼頂く際には、切開のうえ粘膜面を上にして、ゴム（コルク）ボード等に貼り付けて下さい。 貼り付けに使用する針（ピン）は、提出頂く容器の深さより十分に短いものをご使用下さい。 使用する針（ピン）は、ゴム（コルク）ボード等を突き抜けないようにご注意ください。 臓器が十分に浸る量ホルマリンをご使用下さい。 コルク等ホルマリンに浮くボードをご使用の場合には、貼り付けた臓器を下向きにしてホルマリン容器に入れて下さい。  <p>不適正例</p> <ul style="list-style-type: none"> ゴム等ホルマリンに沈むボードをご使用の場合には、貼り付けた臓器を上向きにしてホルマリン容器に入れて下さい。 	<p>不適正例 : 怪我もしくは感染の要因</p> <ul style="list-style-type: none"> 臓器を留める針の長さが、容器の高さより長いため、針先が容器蓋を突き抜けている。  <p>不適正例 : 固定不良の要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ホルマリン量に対して、針が長すぎるため、もしくは、ホルマリン量が少なく、検体がホルマリンに浸っていない。  <p>不適正例 : 固定不良の要因</p> <ul style="list-style-type: none"> 検体の向きが逆であるため、ホルマリンに浸ってない。 

総合検査案内の注意事項（P.116・119）もご参照下さい。